
日本科学哲学会 第45回(2012年)大会

期日：11月10日(土)・11日(日)

場所：宮崎大学教育文化学部

大会参加費：1,000円(非会員の方でもご参加いただけます)

所在地：〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1

交通案内：

タクシー利用：

宮崎空港から：約20分 2000～2500円程度

JR宮崎駅から：約35分 3000～4000円程度

宮崎市中心部のホテル街から：約30分 3000～3500円程度

※タクシーを利用する場合、「バイパス」を通ると(信号がほとんどないので)早く着きますが、遠回りになるため料金は高くなります。料金をおさえたい場合は「バイパスを通らず最短ルートで」と指示してください。

バス利用：

別紙「交通アクセス・会場案内図」を参照

11月10日(土)

研究発表 (10:00-12:00)

《A会場(L101教室)》 司会：1-2 一ノ瀬正樹(東京大学)、3-4 倉田剛(九州大学)

1. 伊藤みずほ(お茶の水女子大学)・・・Kvanvigの「理解」におけるfactivityについて
2. 飯塚理恵(東京大学)・・・徳認識論における知的性格徳の本性に関する考察
3. 太田陽(名古屋大学)・・・実験美学における美的評価の規定要因と認知プロセスモデル
4. 戸田山和久(名古屋大学)・出口康夫(京都大学)・唐沢かおり(東京大学)・山口裕幸(九州大学)・・・フォークサイコロジーと社会心理学—その方法論的問題

《B会場(L102教室)》 司会：1-2 佐野勝彦(JAIST)、3-4 竹内泉(産業技術総合研究所)

1. 鈴木真奈(京都大学)・・・非古典的真理概念と信念の正当化
2. 鈴木聡(東京大学)・・・信念・認識論理の測定理論的基礎
3. 中村大介(共愛学園前橋国際大学)・・・集合論の形成にみる「直観」の問題—カヴァイエスの立場から
4. 高橋優太(慶應義塾大学)・・・ゲンツェンの有限主義とバー定理

《C会場(L105教室)》 司会：1-2 飯田隆(日本大学)、3-4 中川大(北海道教育大学)

1. 四津雅英(東京海洋大学)・・・内包的他動詞の意味論
2. 小林知恵(北海道大学)・・・フレーゲ・ゲーテ問題と非認知主義
3. 森永豊(東京大学)・・・固有名の指示伝播はいかにして説明されるか—DickieによるEvans批判の検討—
4. 林晃紀(慶應義塾大学)・・・ヴィトゲンシュタインの治療的方法とは何か

《D会場(L203教室)》 司会：1-2 小山虎(大阪大学)、3-4 柏端達也(慶應義塾大学)

1. 北村直彰(慶應義塾大学・日本学術振興会)・・・存在論の方法としてのTruthmaker理論
2. 水本正晴(北陸先端科学技術大学院大学)・・・意味盲、クオリア、アスペクト—あるいはゾンビと共感覚—
3. 中山康雄(大阪大学)・・・四次元主義と主張文脈
4. 山田貴裕(京都大学・日本学術振興会)・・・知識可能性のパラドクスについて

理事会・評議員会・大会実行委員会 (12:10-13:30)

総会 (13:30-14:10 総会后、石本賞授与式を行います)

会場：L107教室

シンポジウム (14:15-16:45)

「意思決定、学習、合理性」

司会・提題者：岡田光弘(慶應義塾大学)

提題者：坂上雅道(玉川大学脳科学研究所)、銅谷賢治(沖縄先端科学技術大学院大学)、山田友幸(北海道大学)

会場：L107教室

特別講演 (17:00-18:00)

講演者 : 林 哲也 (宮崎大学)

講演題目: ゲノム解析技術の急速な進化がもたらすゲノム研究の新たな展開

司 会 : 丹治 信春 (日本大学)

会 場 : L107 教室

懇親会 (18:15-20:15)

会費: 一般 5,000 円 学生もしくは求職中の研究者 3,000 円

会場: 宮崎大学生協食堂

11月11日 (日)

ワークショップ (9:30-11:45)

《A 会場 (L101 教室)》

I. 余帰納法と論理学

オーガナイザ・提題者: 矢田部 俊介 (京都大学)

提題者: 秋吉 亮太 (JSPS)、佐野 勝彦 (JAIST)

《B 会場 (L102 教室)》

II. 生命と心のメレオロジー: 歴史と現在

オーガナイザ: 中山康雄 (大阪大学)

提題者: 茶谷直人 (神戸大学)、長坂 一郎 (神戸大学)、松田 毅 (神戸大学)

理事会・編集委員会・大会実行委員会 (11:45-12:45)

研究発表 (13:00-14:30 D会場のみ 13:00-14:00)

《A 会場 (L101 教室)》 司会: 松本 俊吉 (東海大学)

1. 菅 原 裕 輝 (京都大学)・中 尾 央 (名古屋大学・日本学術振興会)
.....メカニズム的説明とは何だったのか: 諸分野への応用可能性
2. 尾 形 まり花 (千葉大学)「類人猿の言語研究」はなぜ困難であったのか
3. 吉 田 善 哉 (京都大学)「拡張された」総合説としての Evo-devo の起源:
遺伝子的変異に依存しない形態の進化

《B 会場 (L102 教室)》 司会: 古田 智久 (日本大学)

1. 櫻 木 新 (芝浦工業大学)日本語の記憶表現について
2. 林 禅 之 (東京大学・日本学術振興会)自己の分裂の問題と現象説
3. 吳 羽 真 (立教大学・日本学術振興会)誰の心が拡張されるのか?

《C 会場 (L105 教室)》 司会: 岡本 賢吾 (首都大学東京)

1. 高 尾 克 也 (京都大学)なぜ客観的ベイズ主義者は論理説を避けるのか?
2. 三 羽 恵梨子 (お茶の水女子大学)Boorse の健康概念は積極的健康に拡張可能か
3. 真 鍋 真 悟 (日本大学)ウィトゲンシュタインの私的言語と心の哲学

《D 会場 (L203 教室)》 司会: 伊勢田 哲治 (京都大学)

1. 筒 井 晴 香 (立教大学・日本学術振興会)共同行為に関する還元主義/非還元主義の対立と反個人主義
2. 瀬 尾 俊 治 (日本総合科学社会理論研究所)新社会科学方法論序説

—解釈学的転回は社会科学に如何なる影響を与えることができるのか—

ワークショップ (14:45-17:00)

《E 会場 (L107 教室)》

III. 脳神経科学と倫理の自然化——『ブレイントラスト』の検討を中心に

オーガナイザ・提題者: 植原 亮 (関西大学)

提題者: 榎 則章 (大阪歯科大学)、信原 幸弘 (東京大学)

日本科学哲学会第 45 回大会サテライトイベント

第二回東アジア科学哲学ワークショップ

参加無料、事前予約不要

期日：2012 年 11 月 12 日（月）10:00～

場所：宮崎駅前 KITEN ビル 8 階コンベンションホール (<http://www.m-kiten.jp/>)

オーガナイザ：伊勢田 哲治（京都大学）、San Wook Yi(漢陽大学校)、InSook Ko (仁荷大学校)

プログラム

1. Ko, Insok (Inha University) “Are Hubo and Asimo of the same kind of robots?:
Some thought on the systematics of robotic beings”
2. Nakao Hisashi (Nagoya University) “Evolution of punishment and education”
3. Murakami Yuko (Tohoku University) “History of HPS in Japan”
4. Gwangsoo Jeong “The Commensurability of Science with Art and Its Limit”
5. Lai, Paul W. L. (Nagoya University) “How philosophers can contribute to educating young scientists”
6. Szu-Ting Chen (National Tsing Hua University) TBA
7. Yasuo Nakayama (Osaka University) “Reality and Fiction in a Technological World”

『科学哲学』バックナンバー

4 (1971 年)	23 科学哲学の未来を問う	37-1 (2004 年)
5 (1972 年)	24 異文化理解の基礎	37-2 時間の実在性
6 (1973 年)	28 カオスをめぐって	38-1 (2005 年)
7 記号・情報・論理	29 特集1 デュエムの科学哲学の現代的意義	38-2 フレーゲの現代性
8 行為の理論	特集2 サイバネティクス	39-1 (2006 年)
9 様相論理学	30 近代における科学と哲学	39-2 相対性理論 100 年
10 心身問題と道徳	31-1 (1998 年)	40-1 (2007 年)
11 解釈とモデル	31-2 生物学的説明	40-2 数学の論理と哲学
12 言語と非言語	32-1 (1999 年)	41-1 (2008 年)
13 社会科学と哲学の間	32-2 医療の哲学に向けて	41-2 非合理性とは何か
14 論理とは何か	33-1 (2000 年)	42-1 (2009 年)
15 科学哲学の展望	33-2 心・生命・コンピュータ	42-2 脳科学と社会
17 合理性とは何か	34-1 (2001 年)	43-1 (2010 年)
18 志向性について	34-2 進化論から見た心と社会	43-2 科学コミュニケーション
19 言語理解	35-1 (2002 年)	44-1 (2011 年)
20 意識・機械・自然	35-2 クワインの哲学—回顧と展望	44-2 ロボット工学と哲学
21 〈私〉の同一性	36-1 (2003 年)	45-1 (2012 年)
22 科学と反—實在論	36-2 ラッセルのパラドックス・100 年	

購入を希望される方は、事務局までご連絡ください（1～3、16、25～27号は在庫切れです）。

下記のアドレスからインターネット上で公開されているバックナンバーが閲覧できます。

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jpssj/-char/ja>

●入会を希望される方は日本科学哲学会事務局までご連絡ください。

所在地：〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40 日本大学文理学部哲学研究室内

FAX：03-5317-9217

e-mail：philsci@chs.nihon-u.ac.jp

